

サビエル生誕五百周年

藤屋侃士
(下松市幸ヶ丘)

548

絵は枝の花に頭を垂
れたアカシアの花。
逆境にあつ
てご存知の方も多いと
思うが、星野さんは中
学校の体育の先生に
なつて一ヶ月後、生徒
を指導中に事故で肩か
ら下が麻痺で不自由な
体となる。事故から四
年目の二十八歳の時、
病院でキリスト教の洗
禮を受ける。

入院生活の中で、両
手両足が不自由なので
口で筆をくわえて絵と
詩を書き始める。絵は
詩ばかり、添えられた
詩は直接、間接に神と
の交わりの言葉。花も
神も自らは何も話さな
いが、花が「神からの
贈り物」というメッセー
ジが伝わってくる。

「花の詩画集シリーズ」は三百五十万部を突破!!

花の詩人の言葉

朝起きると、すぐに思い出す。そうだ、花庭に出て花を見て回る。人もみんながつてみんないいのだ。

三十坪余りの庭だが、今はアジサイ、ハンショウブなど五十種類以上の花が咲き競う。もともとは妻の管理下にあつた庭だが、妻の病気のため今は私と呼ばれる星野富弘さん自画自賛だが、今年ほど庭の花が見事に咲き競うことはない。いるのだろう。何を喜びとしたらいのだろう。これからどうなるのだろう。

しかし、人は時として、いがみ合い、傷つけ合う。先日、人との関係で傷つき、引きこもりがちだった友から絵葉書が届いた。絵葉書の詩画は、花の詩人書くのに星野さんが口にくわえた筆で何時間もかけた

手足が不自由なので、手で筆をくわえて絵と詩を書き始める。絵は詩ばかり、添えられた詩は直接、間接に神との交わりの言葉。花も神も自らは何も話さないが、花が「神からの贈り物」というメッセージが伝わってくる。

